

令和六年

喜

多

流

涌

泉

能

半

部

高林昌司

一曲独吟

頼

政

高林白牛口二

仕舞

難

波

高林呻二

第九十九回

令和六年四月十三日(土) 一時始

主催 高吟会

### 大江能楽堂

京都市中京区押小路通柳馬場東入ル 電話 075-231-7620

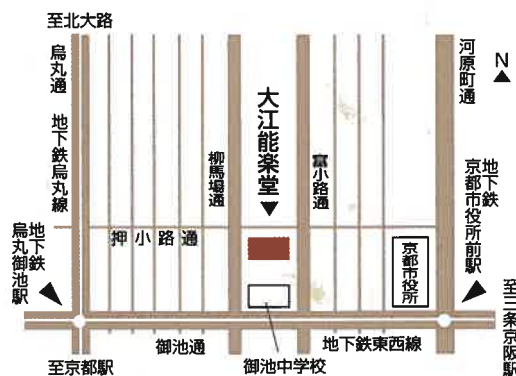
入場料 前売 7,000円 学生券 3,000円  
当日 8,000円 全席自由席

問合せ 〒603-8354 京都市北区等持院西町15 高吟会

電話075-462-1490 FAX.075-463-3494

E-mail koginkai@ares.eonet.ne.jp

URL <http://www.eonet.ne.jp/~koginkai/>



地下鉄「烏丸御池」または「京都市役所前」下車。徒歩約10分。

動静以天地  
視哉涌泉美  
鈿之翁

涌泉能番組

仕舞 難波 高林 呻二

一曲独吟 頼政 高林白牛口二

半 高林昌司  
薨 江崎 欽次郎  
間 山下 守之  
河村 凜太郎  
林 大和  
森田 保美

附祝言

休憩二十分

## テレビで表現された芸能の比較

高林白牛口二

去年八月にNHKのEテレ番組「芸能きわみ堂」が放送されました。ゲストの高橋英樹さんの言葉の中に、歌舞伎系の日本舞踊は、能を採り入れて作られていると言うような発言もありました。私は、この言葉の持つ意味も含めて、能と、日本舞踊やその他の演劇との根本的な違いを、再認識しました。

番組のテーマの一部として取り上げられた「羽衣」の部分で、私の疑問と再認識の解説をしましょう。

能の天女は純真無垢な嘘を吐けない天女です。日本舞踊の天女は嘘吐きです。これは、この二つの芸能の本質を端的に表現しています。

その理由は、羽衣を取り返す為の、漁夫と天女の遣り取りの言葉の中に顕れています。能では漁夫が「羽衣を返したら、返す条件の天女の舞を見せずに天上に帰るだろう」と言った疑いの言葉に対し、天女は「いや、疑いは人間にあり、天に偽りなきものを」と即刻天上界には偽りがないと強く否定しています。日本舞踊では「返してくれたら、契りを結ぼう」と男女の肉欲を擦る言葉が入っていますが、天女はとりかえした羽衣を身に纏い、舞を舞いながら其のまま天に帰ってしまいます。「契りを結ぼう」と言った約束はどうなったのでしょうか。天女は嘘を吐いた事になります。約束は反古になっています。

この中に、能の要求している本質が深く隠されています。これは能に携わる者に背負わされた永遠の課題です。

令和六年十一月九日(土) 於 大江能楽堂

次回予告 野宮 高林 呻二

黒塚 高林 昌司

主催

高吟会

許可なく写真撮影録音録画は、堅くお断り致します。携帯電話 ポケットベル 時計のアラームは、予めお切り下さい。